

vol.
58

2026.03

Tezukayama

大学通信帝塚山

UNIVERSITY LETTER

2026 SPRING

特集

私たちが帝塚山大学で 学ぶ、その理由

奈良からはじまる

5人の留学生の物語



帝塚山大学
TEZUKAYAMA UNIVERSITY



特集

私たちが帝塚山大学で学ぶ、その理由

01-04 特集
私たちが帝塚山大学で学ぶ、その理由
 奈良からはじまる5人の留学生の物語

- 06 Close-up News
大学を超えて広がる学び
- 07 キャンパスレポート
- 09 クラブ・サークル活動紹介
- 12 卒業生紹介
- 13 地域連携×大学連携
- 15 IRレポート
- 17 研究紹介
- 18 所蔵品紹介・奈良学への招待
教員業績図書紹介
- 19 キャリアサポート 就職支援の取組み
- 20 帝塚山TOPICS
- 21 帝塚山ファミリー
- 22 Event & Information
- 23 ふるさと納税のご案内・
ファミリー入試

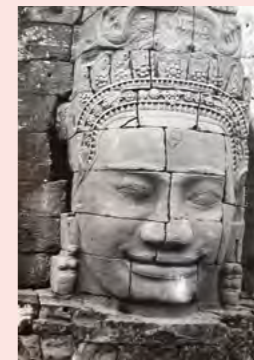


【表紙の人】メーティロンさん
 (日本文化3年)

※本号に掲載の人物の所属、肩書、学年などは2026年3月時点のものです。

Tezukayama University Archives 帝塚山大学歴史絵巻 Vol.11

東南アジア取材旅行(1964年/昭和39年)



▲ バイヨン寺院の四面塔「クメールの微笑」(伊原吉之助名誉教授撮影)

1964(昭和39)年、海外渡航自由化に伴い、本学新聞部は東南アジア取材旅行を敢行しました。熊澤安定学監、伊原吉之助助教授(いずれも当時)をはじめとする教員と学生らが東南アジア6か国を訪れました。まだ高価だったカメラで一千枚を超える写真を撮影し、カンボジアのバイヨン寺院の四面塔「クメールの微笑」の写真は大学新聞にも大きく掲載されました。

その視察の話は13年前、伊原先生から直接伺いました。分厚い3冊のアルバムには、モノクロ写真とともに、パスポートや各地の施設のチケット、絵葉書が丁寧に貼られ、それぞれに細かなキャプションが付けられていました。日々のできごとは、小さな手帳に書き留められていました。1964(昭和39)年8月26日のことを尋ねると、手帳をばらばらとめくり、「タイのスネークファームに行った」と、すぐに答えられた先生。万年筆で書かれた少し癖のある文字が印象に残っています。

この旅では、アメリカ統治下にあった沖縄で給油し、台湾経由で各地に赴いたといいます。帰りには、1964(昭和39)年東京オリンピックの聖火を運ぶ旅客機に遭遇したと語り、「自分が死んだら、大学に関する記録はすべてあなたにあげるよ」と笑って言われました。旅程表からすると、聖火の記憶には時期のずれがあるように思えましたが、確かめないまま、時が過ぎました。

あのアルバムを改めて繰ると、タイプライターで打たれたメモに、帰りの便は予定より2日遅延し、9月7日に那覇に着いたことが記されていました。アテネから運ばれた聖火が到着した、その日でした。几帳面に貼られた写真の向こうに、赤いベレー帽の先生の姿が浮かびました。

奈良からはじまる5人の留学生の物語
 かなえたい夢を胸に
 さまざまな国から帝塚山大学に集う

国際情勢の悪化や、日本の研究力・コンテンツ力の低下が指摘される今、外国人学生にとって日本の留学環境はかつてほど恵まれているとは言い難い状況です。それでも奈良で学びたいと、海を渡る留学生がいます。本特集では、本学で学ぶ5人の留学生の実像に迫りました。

政局に揺れる祖国から奈良へ

テッシーイーモンさん(以下、モンさん)とイーシュエズインウィンさん(以下、イーシュエさん)は、母国ミャンマーの政局に進路を左右された留学生である。ミャンマーでは2021年の軍事クーデターを受け、大学教員の多くが不服従運動に参加して離職し、学生も授業への参加を拒否する事態となった。その結果、多くの若者が自国で学び続けることが難しくなったのである。

魅せる「モンさんの物語」 — 観光で母国に光を

ヤンゴン外国語大学でロシア語を専攻していたモンさんも、その一人だ。十分な学習環境が得られず、友人たちが次々と海外へ進学する中で自身も留学を考え始めた。ロシア語に興味を持てなかったこともあり、日本は東南アジアから行きやすい現実的な留学先だった。そんな

中、日本の外国人観光客の増加を伝えるニュースを偶然目にした。運命を感じたモンさんは、関心のあった観光分野を学ぶため日本への進学を決めた。

来日して驚いたのは、夜になっても街に人があふれ、安心して外を歩けることだった。母国では、社会情勢の不安定さから夜の外出は控えざるを得なかった。

モンさんの夢は、ミャンマーの観光地を世界に広めること。日本の観光政策や、おもてなしに代表されるサービスのあり方を追究したいと、本学の経済経営学部に進学した。母国の経済復興には観光の力が鍵になると考えたからだ。

観光と経済学をキーワードに大学を探し、日本語学校の先生に本学を勧められた。奈良が世界的な観光地であることも進学を後押しした。現在は、観光学を専門とする姜聖淑教授のゼミを志望し、ビジネス日本語能力テストや世界遺産検定も目標にしている。日本の旅行会社やホテルで経験を積み、観光を現場で学びたいと考えている。平和になった母国に戻り、



経済経営学部経済経営学科1年
 テッシーイーモンさん
 (ミャンマー モン州出身)



国際交流イベントで和楽器の横笛を楽しむモンさん

現在は製菓会社や健康食品、サプリメント企業を志望して就職活動中だ。日中関係の微妙

薬膳で文化と健康を結ぶ

元々、中国では多くの歴史的建造物が復元されているため、創建当時の姿を保つ奈良の社寺仏閣に感動した。1000年以上続くならまちの菊岡漢方薬局や薬の町・道修町（大阪府中央区）も訪れた。留学生日本語スピーチコンテストにも挑戦し、1年生ながら優勝を果たした。



文学部日本文化学科3年
メーティロンさん
（ベトナム バク・ザン州出身）

和漢薬は中医学を源流として、日本で独自の発展を遂げてきた。ワンさんは、その文化的背景を理解するため、歴史が息づく奈良への進学を決めた。古文書や民俗学に触れるうち、奈良への関心も深まった。実習で訪れた酒造メーカーで日本酒を味わった経験も印象に残っているという。中国では多くの歴史的建造物が復元されているため、創建当時の姿を保つ奈良の社寺仏閣に感動した。1000年以上続くならまちの菊岡漢方薬局や薬の町・道修町（大阪府中央区）も訪れた。留学生日本語スピーチコンテストにも挑戦し、1年生ながら優勝を果たした。



大学祭で薬膳茶の魅力伝えるワンさん

な変化が採用条件にも影響しているのか、かつては中国語のみを要件としていた企業が英語も条件に加える例が増えているように感じるとワンさんは話す。日本での就職や大学院進学を目指していた友人の中には、家族が不安がるという理由で帰国を決めた者もいる。ワンさん自身も中国の両親から心配の電話を受けたそうだ。それでも、ワンさんは将来、日本で薬膳カフェを開きたいと考えている。日本人の体質に合わせた薬膳茶を提供する店だ。「中国で薬膳茶は日常的に飲まれている。日本風のカフェで、養生を意識したスイーツも一緒に出せば」と目を輝かせた。

言葉の壁を越えて
子どもの学びを支える

ベトナム出身のメーティロンさん（以下、メーさん）は、県内の小学校でベトナム人の子どもたちの学習支援ボランティアを行っている。日本語が分からないまま学校生活を始める子どもに寄り添い、言葉だけでなく心の支えに

帝塚山大学で学んで

かなえたい未来がある

自身の経験を生かして
血の通った支援を

メーさんの語学支援への関心は、生い立ちにも関係している。父はカオラン族、母はサンチ族というベトナムの少数民族の出身で、家ではカオラン族の言葉を話して育った。幼稚園に入園した際、公用語であるベトナム語が理解できず泣いて帰った記憶があるという。結局、幼稚園には通えなくなった。言葉が

もなろうと奮闘中だ。その活動の背景には、少数民族の家庭で育ち、言葉の壁に直面した幼少期の経験があった。教える「メーさんの物語」——言葉がわからない子どもに寄り添う支援するのは、日本で働く親に連れられて来日したベトナム人の小学生だ。日本語が分からないまま入学し、教室で不安を抱える子どもは少なくない。日本語の読み書きを教えるだけでなく、学校生活の習慣も伝えながら、安心して過ごせるよう支援している。言葉を覚えるにつれ、人前で発表できるようになり、子どもが笑顔を見せるようになったとメーさんは誇らしげに語る。一方で、保護者が学校の習慣や日本語を理解できず困る場合もある。連絡帳の内容が分からなかったり、三者面談で子どもが親の通訳を務めたりすることもある。こうした経験から、メーさんは、子どもだけでなく保護者や生活面への支援の必要性も感じられるようになった。外国人が地域で安心して暮らすには、大人の日本語環境も欠かせない。現在は図書館の日本語会話サロンでもボランティアとして活動し、留学生や奈良で働く外国人との日本語交流を手伝っている。

分ならず教室で孤立する子どもの気持ちは、誰よりも分かると話す。日本への留学は、高校3年生の国際交流イベントで日本語に触れたことがきっかけだった。ローマ字で書かれた日本語の原稿を読んだところ、周囲が驚くほど自然に発音できた。「日本語に向いているのかもしれない」と感じ、日本語を志した。日本文化と日本語を深く学びたいという思いから、日本語学校の教員に勧められて奈良にある本学の文学部へ進学した。専門用語の多い授業に苦労しながらも、興味を持った「奈良学」はA判定を取るまで努力を重ねた。

将来は、外国にルーツを持つ子どもへの日本語教育を研究テーマに、日本の大学院進学を目指している。その先の夢は、ベトナムの大学で日本語を教え、学習者の悩みに応じた教材づくりに取り組むことだ。「言葉の違いによって孤立する人を減らしたい」メーさんは強いまなざしで語った。

留学の動機は政治情勢だけではない。専門分野を深めるため日本を選ぶ学生もいる。中国江蘇省出身のワンユーシンさん（以下、ワンさん）は、日本で独自の発展を遂げた漢方医学の背景を理解するため、日本文化の礎でもある奈良で学びたいと考えた。

昨年11月に開催された大学祭「虹色祭」で、ある模擬店が注目を集めた。中国の伝統的な薬膳茶とハイビスカスを主体としたオリジナルの「美容茶」を提供し、その珍しさや味の良さから2日間で300杯超を売り上げた。日本文化学科で学ぶワンさんが出店したその模擬店は、漢方薬を専門とする



さまざまな国籍の人と交流し、日本での生活を支援する



大茶盛に挑戦するメーさん



文学部日本文化学科3年
ワンユーシンさん
（中国江蘇省出身）



流暢な日本語を披露し、スピーチコンテストで優勝した

旅行業に携わる。そんな未来を、モンさんは思い描いている。世界遺産に登録されているバガンをはじめとして、ミャンマーには数多くの観光資源が



数千の仏塔が点在するミャンマー・バガンの遺跡群

あると語り、「おいしい食べ物もいっぱいあります」と胸を張るモンさん。「いつか平和なミャンマーに、世界中の人に来てもらいたい」と笑顔を見せた。建てる「イーシュエさんの物語」——不安を超えて、建築を日本で学ぶ

一方、居住空間デザイン学科で建築を学ぶイーシュエさんは、モンユウ工科大学で土木工学を専攻していた。モンさんと同じく、クーデターによる国内の混乱が海外進学を考えるきっかけとなった。住宅デザインを志していたイーシュエさんは、留学先にイギリスも選択肢に上がる中、日本の建築物にひかれて留学先を決めた。ミャンマーでは、木材資源が十分に活用されない場合も多く、環境への配慮という観点はまだ発展途上だという。日本の建築が素材を無駄なく使う点にイーシュエさんは関心を抱いた。ところが、渡航の準備が整った矢先に思いがけない事態が起こる。ミャウン地区にある実家に突然軍が踏み込んだのだ。身の安全

を守るため、イーシュエさんは一旦、単身でヤンゴンに避難し、その後日本へと旅立つこととなった。居住空間デザイン学科は課題が多くて大変だが、建築模型をつくるのは楽しいと笑うイーシュエさん。日本の住宅建築の技術には驚かされたそうだ。特に、自然光を取り入れる工夫には目を見張るものがあると話す。こうしたアイデアは母国ではあまり見られないので、今後の住宅設計の参考にしたいと語る。また、奈良ならではの魅力として、東大寺や春日大社などの伝統建築を間近に見られる点を挙げた。将来は日本、マレーシア、シンガポールのいずれかで建築関連職に就くことを希望している。「環境に配慮した住まいづくりに取り組みたい」と力強く語った。

ただ、2人とも夏休みや春休みなど長い休暇に入っても、母国には戻らない。一度帰国すると、再出国が困難になるおそれがあるからだ。家族らは今も政情が不安定なミャンマーで暮らしている。寂しくないのかと尋ねると、やや間をおいて「今はオンラインで顔も見られるから」と2人は静かにほほえんだ。奈良でたどる漢方の文化



Close-up News

大学を超えて広がる学び

他大学の学生との交流で学びの景色が変わる。専門や背景の異なる仲間との協働で広がる世界がある。帝塚山大学で学んだことを携え、企業の課題解決に挑み、食の分野で腕を競い、大学の枠を越えた文化祭を実現する。大学の外の世界で切磋琢磨する学生たちの姿を紹介します。



企業課題解決プロジェクトで見た、次の挑戦

3年次のゼミ研究報告会では金融商品をテーマにしました。ゼミは「行動経済学」でしたが、野村證券の実務家の授業でNISAやiDeCoに興味を持ったためです。その後、関心がイノベーションや事業づくりへと移りました。経済学と経営学の両方を学べたことで、「事業」を多面的にとらえられたからだと思います。学外での学びを求めて、東京大学の勉強会で出会った神戸市職員の方から、Microsoft AI Co-Innovation Lab KOBE（神戸市）で開かれるプロジェクトを紹介されました。デジタル技術やAIを活用し、学生が神戸市内企業の課題解決に取り組む実践型の活動です。大学も専門も異なる学生の意見をまとめるのは大変でしたが、対話を重ねることで共通のゴールに導くことができました。将来はAIで学生と企業のインターンシップのミスマッチを防ぐ仕組みを開発したいと考えています。起業を視野に、神戸大学大学院で専門を深める予定です。

経済経営学部 経済経営学科4年
清水 莉奈さん



4大学で高め合う食育サークル「ヘルスチーム菜良」

食育を通じて他大学と協働しているのが、杉本さんと富士さんです。2人は奈良県内の管理栄養士課程を持つ大学※でつくる食育サークル「ヘルスチーム菜良」に所属し、本学の代表を務めています。大阪・関西万博弁当の開発やイオン（株）との連携による商品企画のほか、子ども食堂の開催などにも取り組んできました。万博弁当にかかわった杉本さんは、「お弁当としてのバランスも必要なので、意見調整に苦労しました」と話します。富士さんは「専門が同じだからこそ、野菜を多く食べてもらいたい、塩分を抑えたいと発想が似てしまう。帝塚山大学ならではの個性あるものを皆でつくりあげていきたい」と語りました。2人はそれぞれ、介護施設と園内調理ができる保育園の管理栄養士をめざしています。世代を超えた人と出会えるこの活動は、将来につながると感じています。

※帝塚山大学・畿央大学・近畿大学・奈良女子大学



現代生活学部 食物栄養学科2年
杉本 浩希さん 富士 晴人さん



7大学が垣根を超えてつくる「合同文化祭」

奈良市内7大学（奈良大、奈良女子大、奈良教育大、奈良県立大、近畿大、帝塚山大、奈良学園大）が連携する合同文化祭「平城半神話大系」の運営にかかりました。平城宮跡に市内の大学が集まり、大学の垣根を越えて学生の交流の場をつくらうという奈良では初めての試みで、補助金の採択を受けて実現しました。当初はステージ出演者としての参加でしたが、2年目からは運営に加わり、SNSを使った広報や企業スポンサーとの調整を担当しました。いろいろな学生の意見を取り入れ、規模を拡大して開催した2年目は来場者が約5,000人に達しました。スポンサーになっていただいた県内企業と学生が語り合う就職マッチングイベントも企画し、学生約40人と企業約10社が参加しました。後輩たちには、各大学の個性を生かした取り組みで、奈良をさらに盛り上げてほしいと願っています。

経済経営学部 経済経営学科4年
長峯 悠真さん



来日してすぐのファッションが、1か月、1年と経つうちに変化していく様子をSNSに投稿。ゴックさんのファッションへのこだわりが伝わる。

デジタル時代の
ビジネスを学ぶ

SNSやオンライン販売の普及で、ビジネスの形は大きく変わりつつある。新しい時代のマーケティングを学ぶため、日本の大学を選ぶ留学生もいる。ベトナム出身のファマティゴックさん（以下、ゴックさん）は、デジタルマーケティングを学びながら将来の起業を目指している。

伝える「ゴックさんの物語」
— SNSで学ぶ
デジタルマーケティング

ゴックさんは中学生のとき、ベトナムにあるデンソーの工場を見学し、働く人たちの規律正しさに感心した。「こんな会社で働きたい」。それが日本に興味を持つきっかけだった。もともとアニメ『ドラえもん』が好きで、日本文化にも親しみを感じていた。高校卒業後に日本語の勉強を始め、日本で働いていた姉を頼って来日した。

マーケティングを学ぶ大学を探していたとき、姉の友人で帝塚山大学の卒業生から本学の経済経営学部を勧められた。大阪から通いやすく、静かな環境で勉強に集中できることに加え、先生が親切だという話を聞き進学を決めた。

現在は「デジタルマーケティング演習」で、学部公式インスタグラムの運用に取り組んでいる。チームで投稿案を出し合い、選ばれたものだけが実際に投稿される。芸能人のSNS運用を代行する学部もあり、実践的な学びにつながっている。インプレッションなどを見ながら投稿分析も行う。

ゴックさんは、ノーマイクでカジュアルだったスタイルが、日本人学生の影響ではちりメイクと「変わったファッションへと変化した様子を」「留学生あるある」として投稿した。こうした主体的な授業は、ベトナムの大学ではあまり経験できない学び方だという。

日本のファッションをベトナムへ

洋服が好きだったゴックさんは、来日後、日本のシンプルで品質のよいファッションに引き込まれていった。自由にファッションを楽しめる環境にも魅せら



経済経営学部 経済経営学科1年
ファマティゴックさん
(ベトナム ハノイ出身)

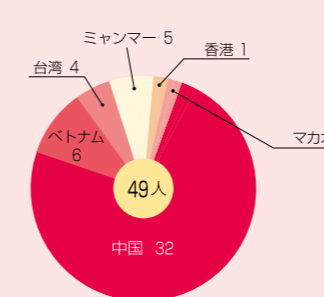
れた。今はSNSなどで洋服を販売することも可能だ。「起業の夢がかなうかもしれない。広告やマーケティングを勉強するモチベーションが一気に高まった。将来は日本のアパレル企業で経験を積んだ後、日本の洋服を扱うか、独自のブランドでビジネスを始めたいと考えている。

日本で学ぶ同郷の友人からは、試験に辞書を持ち込めるなど、留学生に配慮した制度を持つ大学もあると聞く。「帝塚山大学では日本人学生も留学生も同じ。しっかりと知識が身につけられるから逆になりたい」とゴックさんはほほ笑む。夢に向かって、簿記やマーケティング検定の勉強も始めた。大好きな日本のファッションを母国で広めるため、役に立つことにはどんな欲にも取り組みたいと、ゴックさんは意気込んだ。

帝塚山大学の留学生情報（2025年度）

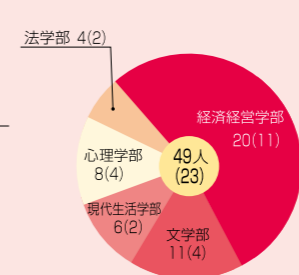
世界各国、地域からの留学生が本学で学びを深めています。

国・地域別学部留学生在籍者数



学部別留学生在籍者数

※()は女子内数



留学生が体験できる国際交流
— 地域と大学で広がる学び —

- 留学生スピーチコンテスト
- 奈良まほろば国際ソロプチミスト 日本文化体験
- 奈良市観光協会主催国際交流事業
 - ・語学教室講師
 - ・料理教室講師
 - ・English Day（出前講座）中学生との英語交流 など

帝塚山大学独自のプログラム

- 異文化理解・日本語パートナー制度
本学に在籍する外国人留学生と日本人学生がお互いの語学力の向上・異文化の理解を目指す制度です。
- 日本文化学科・留学生サポートチーム
日本文化学科の学生が、スピーチコンテストに出場する留学生のスピーチのブラッシュアップをサポート。

Campus Report

学科と研究科の特色ある取り組みを紹介します。

現代生活学部 居住空間デザイン学科



居住空間デザイン学科 設計課題学内展

居住空間デザイン学科では各学年でさまざまな建築設計課題に取り組みます。各授業の最終プレゼンテーション終了後には成果を広く共有するための公開学内展を開催。後期は1月下旬から2月上旬にかけて実施し、1年生は戸建住宅、2年生は図書館とコンセプトショップ、3年生は美術館の設計作品



を展示しました。期間中は学科の学生や教職員に加え、他学科の学生や先生方など多くの方にお越しいただきました。さまざまな視点から有益なコメントをいただき、学生にとっては学びを深める貴重な発表の機会となりました。

教育学部 こども教育学科



窯を開けるドキドキ! 「図画工作科研究II」の陶芸制作

18号館の造形室には陶芸の窯があります。4年生が受講する「図画工作科研究II」では、さまざまな図画工作活動の一環として、陶芸を行ってきました。粘土の造形から始まり、乾燥、窯詰め、素焼き、釉掛け、乾燥、窯詰め、本焼き、と計画的に進めてきました。1月28日、最後の授業日に作品を窯から取り出しました。窯のふたを開けた瞬間、想像以上のできばえに歓声が沸き上がりました! 卒業後に進路先で子どもたちと一緒に使える大切な作品ができました。

帝塚山大学大学院より Graduate School

心理科学研究科 心理学専攻



修士論文公聴会を実施しました

博士前期課程2年の大学院生が修士論文を提出し、主査・副査による試問会を経て、1月31日の公聴会でプレゼンテーションを行いました。今年度は、スライドを用いた口頭発表に続けて個別のポスターセッションを実施し、参加者一人ひとりとじっくり質疑応答する場が設けられました。当日は学部生や修了生、退職した教員も参加し、白熱したディスカッションが繰り広げられました。発表者のみならず、大学院をめぐす学部生にもよい刺激になりました。

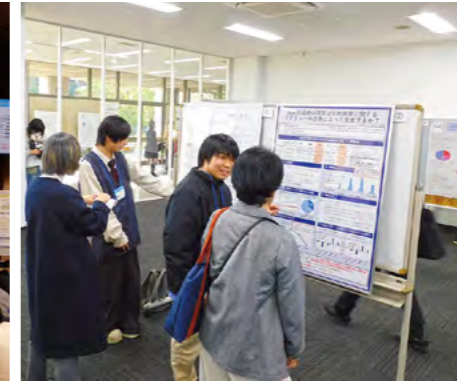
人文科学研究科 日本伝統文化専攻

修士論文中間報告会を開催しました

10月13日、大学院人文科学研究科では修士論文中間報告会を開催しました。修士論文に取り組んでいる博士前期課程2年次生が進捗状況について20分間の発表を行い、教員や大学院生による質疑を実施しました。2年次生は、進めてきた研究の成果を整理して説明し、今後の課題と展望について明確に示していました。しっかりと自分の見解に基づいて発表し、質問に答える2年次生の姿は、1年次生たちにも参考になったようです。



経済経営学部 経済経営学科



ゼミ研究報告会を開催しました

経済経営学部では、3年生がゼミの研究成果を競い合う「ゼミ研究報告会」を毎年大学祭「虹色祭」の期間に実施しています。11月15日に開催した今年度の報告会では、プレゼンテーション部門で、学生の探究心や表現力が感じられる発表が続きました。ポスター部門では、3年生が来場者へ向けて研究内容を丁寧に説明し、活発な質疑応答が行われました。多くの来場者がポスター前で足を止め、会場は終始にぎわいを見せました。当日に結果発表を行い、後日表彰式を実施しました。

心理学部 心理学科



「下宿生・留学生を励ます会&新入生歓迎会」を実施しました

このイベントは、親元を離れた下宿生や留学生を慰労し、新入生を歓迎するとともに、教員や同級生・上級生と積極的に交流することを目的としており、全心理学部生を対象としています。当日は料理や飲み物をふんだんに準備し、ドーナツバイキングで教員がホストとなって学生たちをもてなしました。今回は「教員クイズ」と称し、各教員が自身のことをネタに奇問・珍問を出題。最多正解者には「プライスレス」の商品が贈呈されるという趣向で、大いに盛り上がりました。

現代生活学部 食物栄養学科



外国人向け「わくわく日本食体験」を開催

管理栄養士をめざす学生による食育ボランティアサークル「ヘルスチーム菜良」(関連記事 P.6)の学生が、奈良県外国人支援センターと連携して日本食づくりの交流イベントを実施しました。参加者の国籍が多岐にわたることから、ハラールなどにも配慮し、肉類やアルコールを使わず、自宅でも作りやすい代表的な日本食メニューを考案しました。一緒に作った「おにぎり」と「けんちん汁」を囲みながら交流し、外国人に日本食の魅力を伝えるとともに、学生にとっても世界の文化への理解を深める機会となりました。

法学部 法学科



奈良の交通安全を推進 「トラフィックセーフティ奈良」本格始動

法学部は、学生交通安全ボランティア団体「トラフィックセーフティ奈良」を発足させました。2月14日には、帝塚山大学×UR都市機構「コミュニティフェスタ」にて、初めての地域連携活動として、「知って安心!交通安全の最新情報講習会〜誰もが安全・安心に暮らせるまちに〜」を実施しました。団体と協働する奈良西警察署の協力の下、交通事故の現状についてクイズ形式でわかりやすく解説しつつ、暗い道での事故防止対策として反射材が役立つことを解説しました。

関連記事 P.13

文学部 日本文学専攻



特別講演会「学芸員の仕事内容とその魅力」を開催しました

12月19日に、文学部の卒業生で、地方自治体の学芸員として活躍されている大向翔太さん(十津川村教育委員会勤務、中世ゼミ出身)、富島健司さん(堺市文化観光局勤務、考古学ゼミ出身)、橋本七海さん(富山市民俗民芸村管理センター勤務、民俗学ゼミ出身、関連記事 P.16)を招き、現在のお仕事の内容やお仕事に就くためにした準備、先輩へのメッセージなどを語っていただきました。参加した学生たちは、これから社会人になる上で手本となる先輩の話に、真剣に耳を傾けていました。

Clubs & Circles

■ クラブ・サークル活動紹介 ■

クラブ・サークルを通じて、学内外で活躍する帝塚山大学生の姿をお届けします。



堀 トレーナーも変わって、体の使い方から見直していただきました。ケガも減りましたし、ケアの大切さを実感しました。

——新体制になって、具体的に何が変わりましたか？

堀さん 新しい監督（※藤田幸光監督）になって、環境がガラッと変わりました。その中で成長できたのが、結果につながったと思います。
三反畑さん 春に優勝してから、「プレッシャーは正直ありました。勝ち続けないと、っていう空気があって、よい刺激にはなりましたが、しんどさもありました。
内田さん あったよね。でも、その分みんな乗り越えられた感じもある。メンバーの人数が少ない分、信頼でカバーできたシーズンでした。（以下、敬称略）

堀 応援してくれる人も増えたり。三反畑 お互いの意見もちゃんと受け止められて、よく話し合えていた。堀 応援してくれる人も増えたり。

内田 私、編入組なんですけど、「こないないチームあるんや」って思いました。前のチームでは自分が決めないってプレッシャーがあったんですけど、帝塚山は違う。自分が拾ったら、堀さんが絶対決めてくれるっていう安心感があって、チームで戦えました。

三反畑 みんながそれぞれの立場でやるべきことをやれたのが強かったと思う。
内田 アナリストの4年生2人の力も大きかった。コートの外からの視点ってやっぱり効くよね。

三反畑 チームのバランスもよかったと思う。4年生6人がそれぞれの役割をしっかりとこなせてた。
堀 試合を楽しめるようになったのが大きかったです。

堀 ありました。前は土日に来るたびにちょっと不安だったんですけど、監督がすごくポジティブで。
内田 うん、監督の前向きな姿勢に救われたよね。

堀 ポジションごとにメニューを考えてくださったのもよかったです。体の仕組みが理解できたからか、調子も上がりました。
——秋リーグは全勝優勝。流れが変わった実感はありましたか？

堀 ありました。前は土日に来るたびにちょっと不安だったんですけど、監督がすごくポジティブで。
内田 うん、監督の前向きな姿勢に救われたよね。

堀 ポジションごとにメニューを考えてくださったのもよかったです。体の仕組みが理解できたからか、調子も上がりました。
——秋リーグは全勝優勝。流れが変わった実感はありましたか？

堀 ありました。前は土日に来るたびにちょっと不安だったんですけど、監督がすごくポジティブで。
内田 うん、監督の前向きな姿勢に救われたよね。

女子バレーボール国内トップリーグへ3人が新たな一歩

藤田幸光監督を迎えて新体制で臨んだ2025年度は、関西大学バレーボール連盟女子I部リーグを春季・秋季と連覇。関西インカレでも優勝を果たし、「関西三冠」を達成したシーズンでした。その栄光の立役者でもあった主力メンバーの堀由佳選手（心理4年）、三反畑奈々星選手（経済経営4年）、内田千晴選手（経済経営4年）が、本学を卒業後プロ選手として新たなステージへと進みます。その3人に話をうかがいました。



TEZUKAYAMA VOLLEYBALL

内田 千晴さん
経済経営学部経済経営学科4年
JAぎふリオーレナ(Vリーグ)
ポジション:アウトサイドヒッター
身長:167cm

三反畑 奈々星さん
経済経営学部経済経営学科4年
北海道アルテミス(Vリーグ)
ポジション:リベロ
身長:163cm

堀 由佳さん
心理学部心理学科4年
群馬グリーンウイングス(SVリーグ)
ポジション:アウトサイドヒッター
身長:175cm

堀 応援してくれる人も増えたり。三反畑 お互いの意見もちゃんと受け止められて、よく話し合えていた。堀 応援してくれる人も増えたり。

内田 私、編入組なんですけど、「こないないチームあるんや」って思いました。前のチームでは自分が決めないってプレッシャーがあったんですけど、帝塚山は違う。自分が拾ったら、堀さんが絶対決めてくれるっていう安心感があって、チームで戦えました。

三反畑 みんながそれぞれの立場でやるべきことをやれたのが強かったと思う。
内田 アナリストの4年生2人の力も大きかった。コートの外からの視点ってやっぱり効くよね。

三反畑 チームのバランスもよかったと思う。4年生6人がそれぞれの役割をしっかりとこなせてた。
堀 試合を楽しめるようになったのが大きかったです。

堀 ありました。前は土日に来るたびにちょっと不安だったんですけど、監督がすごくポジティブで。
内田 うん、監督の前向きな姿勢に救われたよね。

堀 ポジションごとにメニューを考えてくださったのもよかったです。体の仕組みが理解できたからか、調子も上がりました。
——秋リーグは全勝優勝。流れが変わった実感はありましたか？

堀 ありました。前は土日に来るたびにちょっと不安だったんですけど、監督がすごくポジティブで。
内田 うん、監督の前向きな姿勢に救われたよね。

堀 ポジションごとにメニューを考えてくださったのもよかったです。体の仕組みが理解できたからか、調子も上がりました。
——秋リーグは全勝優勝。流れが変わった実感はありましたか？

堀 ありました。前は土日に来るたびにちょっと不安だったんですけど、監督がすごくポジティブで。
内田 うん、監督の前向きな姿勢に救われたよね。

堀 応援してくれる人も増えたり。三反畑 お互いの意見もちゃんと受け止められて、よく話し合えていた。堀 応援してくれる人も増えたり。

内田 私、編入組なんですけど、「こないないチームあるんや」って思いました。前のチームでは自分が決めないってプレッシャーがあったんですけど、帝塚山は違う。自分が拾ったら、堀さんが絶対決めてくれるっていう安心感があって、チームで戦えました。

三反畑 みんながそれぞれの立場でやるべきことをやれたのが強かったと思う。
内田 アナリストの4年生2人の力も大きかった。コートの外からの視点ってやっぱり効くよね。

三反畑 チームのバランスもよかったと思う。4年生6人がそれぞれの役割をしっかりとこなせてた。
堀 試合を楽しめるようになったのが大きかったです。

堀 ありました。前は土日に来るたびにちょっと不安だったんですけど、監督がすごくポジティブで。
内田 うん、監督の前向きな姿勢に救われたよね。

堀 ポジションごとにメニューを考えてくださったのもよかったです。体の仕組みが理解できたからか、調子も上がりました。
——秋リーグは全勝優勝。流れが変わった実感はありましたか？

堀 ありました。前は土日に来るたびにちょっと不安だったんですけど、監督がすごくポジティブで。
内田 うん、監督の前向きな姿勢に救われたよね。

堀 ポジションごとにメニューを考えてくださったのもよかったです。体の仕組みが理解できたからか、調子も上がりました。
——秋リーグは全勝優勝。流れが変わった実感はありましたか？

堀 ありました。前は土日に来るたびにちょっと不安だったんですけど、監督がすごくポジティブで。
内田 うん、監督の前向きな姿勢に救われたよね。



堀 応援してくれる人も増えたり。三反畑 お互いの意見もちゃんと受け止められて、よく話し合えていた。堀 応援してくれる人も増えたり。

内田 私、編入組なんですけど、「こないないチームあるんや」って思いました。前のチームでは自分が決めないってプレッシャーがあったんですけど、帝塚山は違う。自分が拾ったら、堀さんが絶対決めてくれるっていう安心感があって、チームで戦えました。

三反畑 みんながそれぞれの立場でやるべきことをやれたのが強かったと思う。
内田 アナリストの4年生2人の力も大きかった。コートの外からの視点ってやっぱり効くよね。

三反畑 チームのバランスもよかったと思う。4年生6人がそれぞれの役割をしっかりとこなせてた。
堀 試合を楽しめるようになったのが大きかったです。

堀 ありました。前は土日に来るたびにちょっと不安だったんですけど、監督がすごくポジティブで。
内田 うん、監督の前向きな姿勢に救われたよね。

堀 ポジションごとにメニューを考えてくださったのもよかったです。体の仕組みが理解できたからか、調子も上がりました。
——秋リーグは全勝優勝。流れが変わった実感はありましたか？

堀 ありました。前は土日に来るたびにちょっと不安だったんですけど、監督がすごくポジティブで。
内田 うん、監督の前向きな姿勢に救われたよね。



地域の歴史や文化の紡ぎ手となる学芸員に

富山市の呉羽丘陵のふもとにある「富山市民俗民芸村」は、7つの博物館と2つの体験施設が集まる施設群です。私は学芸員として展示企画や資料収集、施設の維持管理などに携わっています。

学芸員は展示や資料研究だけでなく、事務作業や施設運営など幅広く担当します。最初は戸惑いましたが、マニュアルや過去の資料を読み込み、さまざまな業務に対応できるよう努めました。やりがいを感じるのは、展示の意図が伝わったと実感した瞬間。楽しそうに見学する来館者の姿や「面白かった」といった好意的なアンケートにも、いつも勇気づけられます。

中学生のころから歴史に興味があり、文学部に進学しました。民俗学のゼミに所属し、学芸員資格と高校教員免許を取得しました。大学生活で特に印象に残っているのは、3年生のときの地域連携プロジェクトです。奈良県立民俗博物館（大和郡山市）の敷地内に移築復原された古民家を紹介する動画やリーフレットを作成し、イベントで解説も行いました。コロナ禍での制約の中、学生主体で進めた活動経験は私の財産です。その翌年、4年生は実習や必修授業が重なり慌ただしい日々を過ごしました。一番努力した時期だったと時折懐かしくなります。学芸員実習で学んだ資料の取り扱い方も、ゼミやプロジェクトで培った人前で話す力も、すべて大学で身につけたもの。来館者への展示説明に生かしているのを実感しています。

民俗学を学んだからこそ、地域の歴史や文化を後世に残す大切さに気づくことができました。展示や体験を通じてその思いを皆に届けたい。民俗民芸村をより多くの人々が訪れる場所にするのが目標です。



奈良県立民俗博物館で実施した古民家プロジェクトでは、イベント来場者に古民家のかまど、納戸などの実物を見てもらい、昔の家や道具に関するクイズにチャレンジしてもらいました。



展示で自分の思いが
伝わる瞬間がうれしい

富山市民俗民芸村管理センター 学芸員

橋本 七海さん
文学部日本文化学科 2022年3月卒業

卒業生紹介



子どもと一緒に
自分自身も成長したい

大和郡山市立郡山西小学校 教諭

竹内 心さん
教育学部こども教育学科2024年3月卒業

悩みを抱える子どもに寄り添える教師に

小学校のとき、学校生活に悩み、通えなくなった時期がありました。そのとき親身になってくださった担任の先生が、私の心の支えになりました。「あの先生のように、悩みを抱える子どもに寄り添える教師になりたい」。その思いが、小学校教諭をめざす原点となったのです。

小学校教諭・幼稚園教諭・保育士の3資格を取得できる帝塚山大学への進学を決め、フリースクールでのボランティアにも取り組みました。その活動を通じて「学校に来る意味」や「学びの形」は一人ひとり違うのだと実感しました。自分の価値観を押しつせず、子どもの気持ちを受け止めること。この考え方が、今も教員としての指針になっています。

現在は小学2年生の担任として、子どもたちが安心して学校生活を送れるクラスづくりに努めています。司書教諭の資格を生かし、学校図書館の運営や読書活動の推進にも携わっています。考え方や感じ方の異なる子どもたちが互いに尊重し合える関係を築くのは容易ではありません。だからこそ、「相手の気持ちをどう受け止めるか」「自分の思いをどう伝えるか」を子どもたちと一緒に考え続けてきました。その結果、トラブル時には子どもたちで話し合うようになり、解決策を考える姿も見られるようになりました。

「できた!」と子どもが目を輝かせるたび、大きな喜びを感じます。子どもたちを笑顔にするにはどうすればよいのか。そのために、大学で学んだ「子ども一人ひとりの背景を理解する視点」と「物事を多面的に見る姿勢」を胸に、子どもたちとともに学び、私自身も成長し続けたいと思います。



教員と学生の距離が近いのも、教育学部の魅力です。学生同士の仲もよく、皆で励まし合いながら採用試験の勉強をしたことも、良い思い出。分からないことがあれば、先生の研究室を訪ねて質問していました。

クラブ・サークル活動紹介

クラブ・サークルを通じて、学内外で活躍する帝塚山大学生の姿をお届けします。

注目のクラブ・サークル

フットサル

東生駒
キャンパス

初心者でも大歓迎!
マネージャーも鋭意募集中です



白石：一度遊びに来てください！ 待っています！
大黒：進取果敢！ 新しいことにチャレンジしよ！

代表 白石 航士さん(経済経営1年)(写真左)

キャプテン 大黒 春音さん(経済経営1年)(写真右)

- ①東生駒キャンパスの第一体育館で毎週火曜日に練習しています。
- ②男子23名 女子1名
- ③2025年度に設立の新しいサークル。未経験者でも楽しく参加できる、アットホームで挑戦しやすい環境が大きな魅力です。フットサルで、学年を超えた仲間づくりができるサークルをめざしています！



皆で和気あいあいと練習中



ヒカリエ

学園前
キャンパス

大学で新しいことに挑戦してみたい
そんな人にぴったりのサークルです



何事も経験!
ボランティア活動の経験者も未経験でイメージが持たにくい人もぜひ参加してみてください!

代表 吉川 朋希さん(心理3年)



STZ_HIKARIE

- ①月に2、3回、居場所支援や子ども食堂、不登校支援など学外でのボランティア活動を行っています。企画会議のランチミーティングを毎週火曜日のお昼休みに学園前の教室で行っています。
- ②男子7名 女子22名
- ③普段大学では出会えない方々とかかわることで、自己成長ができます。コミュニケーションが苦手な人や企画や制作が苦手な人も大丈夫！皆で協力して活動しています。



子ども食堂や学校がメインの活動場



2025
11.15-16
SAT.-SUN.

模擬店やキッチンカーが充実 第61回帝塚山大学大学祭「虹色祭」を開催

第61回帝塚山大学「虹色祭」を、11月15日・16日の2日間にわたり東生駒キャンパスで開催しました。クラブ・サークルによるステージ発表や、各学科の学修成果展示を軸に、多彩な企画を展開し、学内外から多くの来場者を迎えました。中央広場には模擬店が並び、定番メニューに加

え薬膳茶など特色ある企画も登場しました。さらに、キッチンカーや親子連れも楽しめる縁日企画など、多様な催しが来場者を楽しませました。ステージではダンスや各種コンテストに加え、アーティストライブやお笑いライブも実施。フィナーレでは恒例の花火が打ち上げられ、祭典を締めくくりました。期間中は、ゼミ研究報告会や留学生スピーチコンテストも開催し、教育・研究活動の成果発信の場となりました。あわせてホームカミングパーティーを開催し、卒業生が懐かしいキャンパスに集い、食事を囲みながら思い出話に花を咲かせました。

2025
12.18-
THU.-

今年も灯る、冬のきらめき キャンパスに広がるイルミネーション

12月18日、学園前キャンパスでイルミネーションの点灯式を行いました。カウントダウンとともに光が灯されると、学生から感嘆の声が上がりました。あたりの暗さが増すほど、赤や青の華やかな色彩が際立ちます。授業を終えた学生が足を止め、昨日までとは異なる冬景色に見入る姿や、友人と撮影に興

じる様子が見られました。点灯後は場所を移し、学園会主催のクリスマス会を開催。お茶や菓子を囲んで交流を楽しみました。イルミネーションは約2か月にわたり、冬のキャンパスを幻想的に照らしました。



体育館の床に大仏が出現 学生と園児の造形活動 「みんなのだいぶつさま」

こども教育学科
×
帝塚山幼稚園

教育学部は帝塚山幼稚園と連携し、11月21日、東大寺の大仏を題材とした造形活動「みんなのだいぶつさま」を実施しました。

当日は、帝塚山小学校の体育館の床いっぱいロープで大仏の輪郭を描き、あらかじめ作ってあった色とりどりのパーツを並べて、実物大の大仏を完成させました。最後は、全員で作品の中に入り記念撮影を行い、大仏の大きさを改めて実感する機会となりました。

今回の活動にあたって、学生と園児たちは事前に本学の西山厚客員教授の講義を聞き、大仏の歴史や文化について理解を深め

ました。その後、顔や手、螺髪などのパーツを分担して制作。園児一人ひとりの自由な発想を大切にしながら、学生が丁寧にサポートしました。

造形活動に参加した藤井優里菜さん（こども教育4年）は「子どもたちが自ら動いてくれたのがとても印象的で、保育士になったときにもこんな経験をさせてあげたいと思った」と笑顔で話しました。

指導した服部正志准教授（造形表現）は、「子どもの表現を尊重する姿勢やかかわり方を、学生にはこの経験から学んでほしい」と語りました。



皆で力を合わせてミッションやクイズに挑戦 学童でデジタルスタンプラリー

心理学科
×
奈良県内学童保育所
×
マッシュ&ルーム

心理学科の式部陽子准教授（ヘアレント・トレーニング）のゼミに所属する4年生3人が、学童保育所で「デジタルスタンプラリー」に取り組みました。「コロナ禍で育ち、友だちとのかわりが限られてきた小学生が、楽しみながらコミュニケーションを深められるように、学生が発案した企画です。本プロジェクトは3年次の1月に準備を開始。ICTの専門家の協力を得て、オリジナルの「冒険学習型デジタルスタンプラリー」を考案しました。4年次の夏休みに、奈良県内3か所の学童保育所で展開しました。子どもたちは5〜6人のグループでタブレットを手に、学童保育所の敷地内の各所に配置された二次元コードを読み取りながら、ミッションやクイズに協力して挑戦しました。ミッションをクリアするとメダルが手に入る仕組みで、子どもたちは元気がいっぱい保育所を駆け回りました。活動中、学生は子どもたちをサポートしつつ行動記録を取り、状況に応じて声をかけるなど、子どもたちが協調性を育めるように心理的支援を行いました。現在は、そのときの行動記録に基づく効果検証も進めています。

参加した子どもたちからは、「またやりたい」との声も多く聞かれ、楽しさと教育的効果が両立した取り組みとなりました。



地域連携 × 大学連携

本学は、「実学の帝塚山大学」をスローガンに掲げ、自治体、企業、研究機関などと連携して地域や社会の課題解決に取り組む「プロジェクト型学習」に注力しています。

奈良県を中心に各所で展開する地域連携、産官学連携のほか、学術協定をもとにした大学連携、総合学園の強みを生かした帝塚山学園内での教育連携など、多種多様な協働事業を通じて、学生は実践力とともに「時代を生き抜く力」と「変化に対応する力」を身につけます。



奈良県産食材をふんだんに使った バレンタイン限定チョコデザートプレートを開発・販売

食物栄養学科
×
近鉄百貨店奈良店
×
カフェ・フルフルール



ヘルスチーム菜良に所属する食物栄養学科の学生が、近鉄百貨店奈良店と協働し、限定バレンタインスイーツプレート「奈良とチョコと、ときどき鹿」を企画しました。2026年1月21日から2月14日まで、同店2階カフェ「フルフルール」で販売されました。

デアで生まれた和風ケーキも並びました。この和ケーキは奈良の郷土食「いもぼた」をイメージし、求肥の中にあんぼ柿とあんこ、レーズンとチーズケーキを忍ばせた和洋折衷の一品です。学生はフルフルールの担当者と協議を重ねながらレシピの改良にかかりました。

期間中は、開発に携わった学生が店頭でPRを行いました。プレートは好評を博し、売り切れる日も出るほどでした。



※「ヘルスチーム菜良」は管理栄養士をめぐす奈良県内4大学（帝塚山大学・畿央大学・近畿大学・奈良女子大学）の学生で構成する食育ボランティアサークル。



学生が担う奈良の交通安全 「トラフィックセーフティ奈良」発足

法学科
×
奈良西警察署

「安全で安心できる交通社会を実現する」。1月29日、学園前キャンパスで行われた「トラフィックセーフティ奈良（TSN）」の発足式で、学生代表の水中康介さん（法3年）が、交通ルールを遵守し、市民の模範となる行動を実践する決意を表明しました。



TSNは法学科と奈良西警察署が連携し、学生が主体となって交通安全の啓発に取り組むボランティア団体です。

発足式後は近鉄学園前駅で初の協働街頭啓発に臨み、反射材を配布しながら4月1日施行の自転車の青切符制度を周知しました。



さらに、2月14日にはUR都市機構・登美が丘第三団地で、運転シミュレーターを用いた交通安全教室を実施。今後は小中学校での啓発活動も展開していきます。



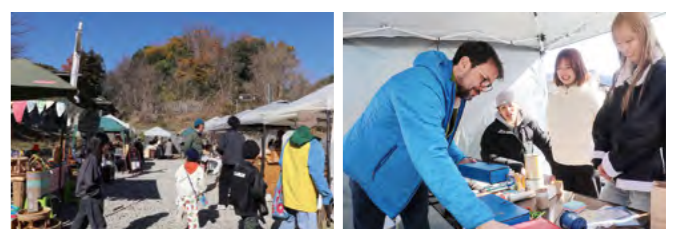
きたまちコモンズプロジェクト 学生がマルシェでまちづくり

居住空間
デザイン学科
×
シェアスペース「まほろし」

近鉄奈良駅北側の「きたまち」エリアを対象とする「きたまちコモンズプロジェクト」は、居住空間デザイン学科の北澤嘉浩教授（都市計画、地域デザイン）のゼミ生が中心となり、2020年度から調査と分析を重ねてきました。まちの共有資産「コモンズ」を生かした地域活性化の可能性を探る取り組みです。

今年度は、シェアスペース「まほろし」と協力し、12月13日に開催された地域マルシェ「冬のはためき市」に、運営協力と出店で参加しました。当日、学生はリサイクルマーケットを出店し、使用済みの紙袋を再利用したブックカバーやしおり作りのワークショップも行いました。マルシェにはスープカレーやパン、地場野菜、花、お弁当など多彩な店舗が並び、地元の人に加え観光で訪れた人でにぎわいを見せました。

学生は出展に向けて、歴史や地理の基礎調査やフィールドワークを通じて地域課題を分析し、「人と人の絆」をテーマに、企画・コンテンツ・広報の3チームで準備を進めました。出店者や来場者との交流を通じ、まちの活性化には人と人のつながりが基盤となることを実感したようです。



大学 連携

地域でのプロジェクト活動の成果で学術交流 第16回多摩大学アクティブ・ラーニング発表祭&第14回実践学生発表祭

2025年2月22日、東生駒キャンパスにおいて「第13回 実学の帝塚山大学実践学生発表祭 ～アクティブ・ラーニングの実践事例～」を開催しました。

本発表祭は、多摩大学（東京都多摩市）および大阪電気通信大学（大阪府寝屋川市）との交流の一環として毎年実施され、地域課題や産官学連携プロジェクトに取り組む学生が成果を発表します。多摩大学で12月に行われる「アクティブ・ラーニング祭」には本学の学生が参加し、東生駒キャンパスでの発表祭には多摩大学や大阪電気通信大学の学生が招かれるなど、相互に学び合う交流が続いています。

今回、本学からは文学部による富麻寺プロジェクト、教育学部によるオレンジリボン運動、現代生活学部による紙器を用いた什器設計や中鎖脂肪酸の高齢者への効果検証など、各学科の学生が取り組む多様なプロジェクトの成果が報告されました。いずれの発表も地域や社会の課題に対して学生ならではの視点や発想が反映されており、1年間の学びと努力の成果が存分に示されました。発表後の質疑応答では、来場者からの予想外の質問にも学生たちは落ち着いて丁寧に答えていました。そのやりとりから、実践を通じて学びを着実に自分の力にしている様子がうかがえました。

招待発表では、多摩大学と大阪電気通信大学がそれぞれの特色ある取り組みを報告しました。本発表祭は、学部や大学の枠を超えた交流を通じて、学生の視野を広げ、新たな学問的発想を育む貴重な機会となりました。



学習行動調査からみる帝塚山大学生

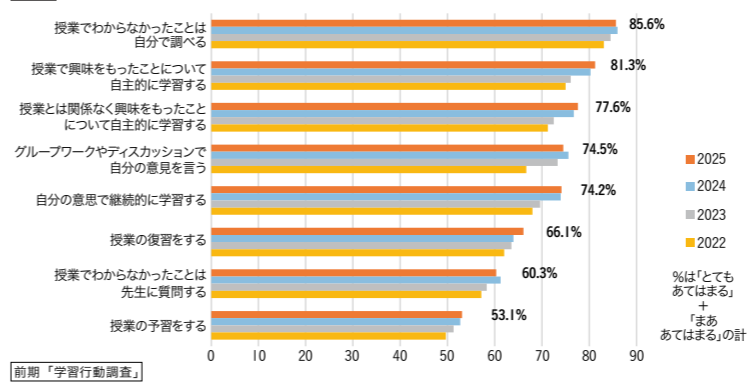
帝塚山大学では、入学から卒業までの大学生生活4年間を通して、学生を対象とした各種アンケートを定期的に実施し、その結果を教育活動・学生支援の改善に生かすべくIRに取り組みんでいます。その取り組みのひとつとして、「学習行動調査」では、在学生を対象に、毎年度、前期・後期それぞれの履修登録期間中、学習経験や学習時間、学習意欲、大学の学びで身についた力・知識などを調査しています。今回は、この「学習行動調査」の結果を分析し、導き出された課題を整理することで、今後の本学の教育内容・方法や学生支援の改善に役立てていきます。

今回、分析結果を報告します学習行動調査は、2025年度前期・後期それぞれの履修登録期間中に実施しました。学生は、2024年度後期の学習行動を2025年度前期に、2025年度前期の学習行動を同年後期に振り返り回答しています。過去3年間のデータと比較しながら、学生の学習行動の変容を読み解いてみたいと思います。

授業への取組姿勢・態度の上位は変わらず、学生の学習意欲向上

前期履修登録時の調査において、「大学の授業に普段どのように取り組んでいるか」を選択形式で尋ねたところ、「とてもあてはまる」「まああてはまる」と回答した学生の割合が高かった上位3項目は、「授業でわからなかったことは自分で調べる」(85・6%)、「授業で興味をもったことについて自主的に学習する」(81・3%)、「授業とは関係なく興味をもったことについて自主的に学習する」(77・6%)となりました。項目別にみると、上位3位の項目は昨年から変動はありませんでしたが、2位、3位共に数値の上昇がみられました。また、「自分の意思で継続的に学習する」(74・2%)、「授業

図1 授業への取組姿勢・態度(複数選択可)



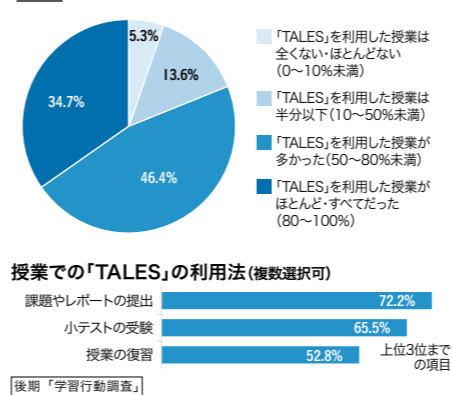
の復習をする」(66・1%)、「授業の予習をする」(53・1%)の項目は、4年間で最も高い割合になりました。帝塚山大学が定める「カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)」では、主体的な学びを促進するために、アクティブ・ラーニングやICTの活

用を広く推進するとともに、地域と連携したプロジェクト型学習を推進しています。各学科における教育活動の取組が、個々の学生の学習意欲に好影響をもたらしている可能性があります。

本学独自の学習支援システム「TALES」の活用は8割超え

後期履修登録時の調査において、eラーニング機能を搭載した本学独自の学習支援システム「TALES (Tezukayama Active Learning Education Square)」を利用した授業(予習・復習含む)の割合を尋ねたところ、「TALES」を利用した授業が「多かった(50~80%未満)」「ほとんど・すべてだった(80~100%)」と回答した割合の合計は8割超となり、この4年間で最も高い割合となりました。年々「TALES」の利用率が高まり、本学学生にとって馴染み深い学習ツールとなってきたことが確認できます。また、授業で「どのように「TALES」を利用したか」を尋ねたところ、上位3項目は昨年度から変更はなく、「課題やレポートの提出」(72・2%)、「小テストの受験」(65・5%)、「授業の復習」(52・8%)の順となりました。

図2 「TALES」を利用した授業の割合(ひとつ選択)



授業での「TALES」の利用法(複数選択可)



後期履修登録時の調査において、「授業開講期間中1週間あたりの授業時間外の学習時間」を尋ねたところ、「6

授業時間「外」の学習時間は減少傾向

このほかにも、「授業の予習で利用した」と回答する割合の増加が見られており、本学の学習支援システム「TALES」が、自学自習ツールとして有効に機能し、学生の自発的な学びを促進しているように思います。引き続き、学習環境、学修促進のサポートを図っていきたく考えています。

時間以上」と回答した学生の割合は僅かながら減少しており、最も多かった層は「1~5時間」(55・6%)の学生でした。学習時間については全国的にも少ないことが言われていますが、前期履修登録時の調査で「授業で興味をもったことについて自主的に学習する」及び「授業とは関係なく興味をもったことについて自主的に学習する」を選んだ学生の割合が4年間で最も増えていることから、今後の学習時間の「伸び」につながる可能性も考えられます。引き続き、注視していきます。

学生の成長実感、「主体性」がここ4年間で最も高い数値に

後期履修登録時の調査において、「これまで身についたと思う力や知識」を尋ねたところ、上位3項目は「主体性」(47・1%)、「実行力」(31・6%)、「傾聴力」(29・0%)の順で昨年と同じ

結果となり、いずれも数値の上昇がみられました。特に1位の「主体性」はこの4年間で最も高い数値となりました。一方、数値が低かったものは、「外国語」(5・7%)、「データサイエンス」(6・4%)、「ITスキル」(13・2%)となり、3位は昨年の「発信力」(13・8%)と入れ替わりしました。このうち、「外国語」及び「データサイエンス」については、4年間で最も数値が高くなっています。その要因が何かについては、複数の測定指標を用いて多角的に検証する必要があります。

帝塚山大学への満足度は、今年も上昇

後期履修登録時の調査において、「帝塚山大学に満足しているか」を尋ねたところ、「満足している」「まあ満足している」と回答した割合の合計は、昨

年に引き続き8割を超え、この4年間で最も高い数値となりました。また、「満足している」と回答した割合も、この4年間で最も高い数値となっています。学生のニーズに対して、本学が提供する学修環境、学生生活に対するサポートが合致する部分が増え、一定の割合で評価されていると考えられます。今後ますますの満足度向上に向けて、教職員一同、これからも努力し続けていきたいと考えております。

紙面の都合上、全ての設問を掲載することはできませんでしたが、今回の調査結果について、今後も大学としてさらなる検証を重ね、教育・学生支援の改善・充実に取り組んでいきたいと思えます。

最後になりましたが、10月に開催しました教育懇談会におきまして、

参加された父母等の方々を対象としたアンケートを実施いたしました。ご協力いただきました皆様には深く感謝いたします。ありがとうございました。

図5 帝塚山大学への満足度(ひとつ選択)

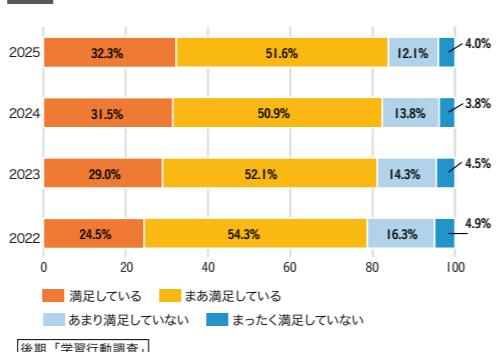


図3 授業開講期間中の1週間あたりの授業時間外の学習時間(ひとつ選択)

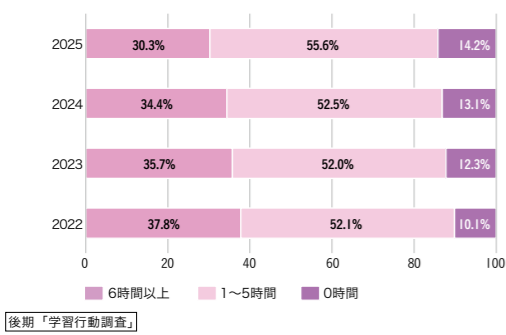
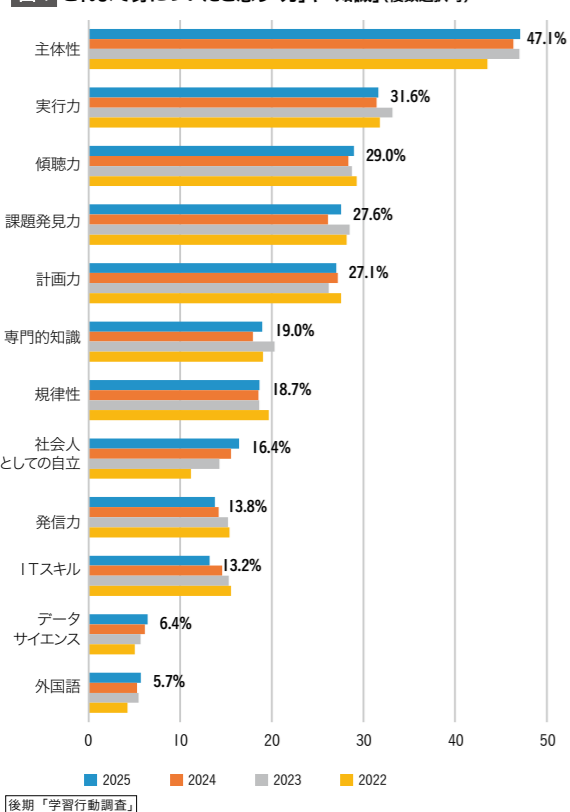


図4 これまで身についたと思う「力」や「知識」(複数選択可)



2025年度学習行動調査実施概要

- 調査期間 前期:2025年3月27日~4月14日 後期:2025年9月18日~10月2日
 - 対象 前期:新2年生以上の在学生 後期:在学生全員
 - 調査方法 webによる各期の授業科目の履修登録画面にアンケート設問が自動表示され、その場で入力
 - 回答者数・率 前期:1,888名(男子894名・女子994名)、96.2% 後期:2,203名(男子1,063名・女子1,140名)、87.6%
- ※IRレポートには含まれていませんが、学習行動調査は大学院生にも実施しています。
※前期と後期では設問が異なります。
※調査結果の比率は小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、内訳の計と合計が一致しない場合があります。

※ IR(Institutional Research インスティテューショナル・リサーチ)とは、大学の教育・研究などに関する情報の収集・分析を通して、大学の経営に関する意思決定や、教育の改善のための計画策定などの支援を行うことを指します。

『大学通信帝塚山』に毎号掲載している本頁「IRレポート」は大学ホームページでもコンテンツとしてまとめています。
(URL) <https://www.tezukayama-u.ac.jp/disclosure/ir/>



奈良学への招待



東生駒キャンパス構内に咲く山躑躅

春先のある一日、山に登り飲食をする山遊びの行事が全国各地にみられる。奈良県下ではハルマツリ、ハルゴト、ダケノボリ、ヤマガエリなどという。実施日の4月3日が神武天皇の大祭であるためにジヌムサンや寺院の祭りに合わせて法隆寺レンゾ、富麻レンゾと呼ばれる地域もある。

奈良県北西部では、4月3日に、子どもが集落近くの高い山に巻き寿司や蓬餅が入った重箱詰を持って登り、一日遊び、夕方に山躑躅や馬酔木の花を摘んで持ち帰ったという。ハルマツリは特定の山に山の神を迎えに行き、神と共食し、花の枝を依代として里に連れ帰る行事と考えられる。農耕の前に、里に迎えられる山の神は田の神となり、稲の豊穣をもたらす。山躑躅は苗代の準備開始を告げる花として苗代花という別称を持ち、馬酔木は白い小さな花が群れて咲くことから稲穂にみたてられる。田の神が宿る春の花である。

所蔵品紹介

ハルマツリ

文学部 日本文化学科 教授 高田照世

今回ご紹介するのは本学が所蔵するラスター彩タイルです。「ラスター彩」とは、鉛系の釉薬をほどこした陶器に金や銀で文様を描き、低温で二度焼きすることで、表面を金属のように輝かせる技法で作られたタイルです。

13〜14世紀に流行します。文様にはモングル系の人物を描いたもののほか、本品のように動物文様の作品も今も数多く残っており、中国唐時代の工芸作品に共通する鹿文や山羊文などもみられます。一方で、動物を表す点においてはササン朝ペルシャ美術との関係も考えられ、そのルーツの特定は容易ではありません。

なお、今回ご紹介した本学所蔵のラスター彩タイルは、独特な文様や制作技法が国際的な文化交流を示す資料として高く評価され、今年度、九州国立博物館の特集展示「アジアのタイル」にも出陳されました。



ラスター彩タイル

大学院 人文科学研究科 日本伝統文化専攻 博士前期課程2年 長野 快斗

高く評価され、今年度、九州国立博物館の特集展示「アジアのタイル」にも出陳されました。



出土直後の女神ナナの頭部 提供：日本・ウズベキスタン共同発掘調査隊

国立民族学博物館（大阪府吹田市）では現在、特別展「シルクロードの商人（あきんど）語りーサマルカンドの遺跡とユーラシア交流ー」（6月2日（火）が開幕されています。同展では、日本で公開されるのは初めてとなるソロアスター教の木彫板絵が展示されています。この板絵は、2017年にウズベキスタン・サマルカンド市郊外のカフィル・カラ城で実施された発掘調査において、本学の宇野隆夫客員研究員（当時は客員教授が中心となった日本・ウズベキスタン共同発掘調査隊により発掘されたものです。板絵には、女神ナナーに供物や火を捧げる人々や楽器を奏でる人物が描かれており、音楽隊の楽器には、正倉院宝物に見られる琵琶や箏（こと）と同種のもものが確認されています。この発見により、サマルカンド周辺が東西・南北のシルクロードの十字路として各地の文化が融合する場であったことが示唆されると同時に、日本への伝来ルートの手がかりになる可能性が示されました。

その後も同発掘隊による調査が行われ、2018年、2019年には金製の装飾具や宝飾品、さらに王の居住空間に隣接する食糧庫跡などが発掘されました。板絵にははじまるカフィル・カラ城での一連の発掘は、当時メディアでも大きく取り上げられました。今回の特別展は、これらの出土資料を広く一般に紹介するとともに、日本の研究者がかかわった国際共同研究の成果を示す貴重な機会です。カフィル・カラ城は、2023年にユネスコ世界遺産「シルクロード・ザラフシャン・カラクム回廊」の構成資産の一つとして登録されています。



カフィル・カラ城食糧庫発掘物から再現した王の饗宴図（宇野隆夫監修・鈴木依子画）

特別展 「シルクロードの商人（あきんど）語りーサマルカンドの遺跡とユーラシア交流ー」
会期 ~ 2026年6月2日（火）
会場 国立民族学博物館 特別展示館
開館時間 10:00 ~ 17:00（入館は16:30まで）
休館日 水曜日



宇野隆夫 客員研究員

特別展で日本初公開 ソロアスター教板絵は 宇野隆夫客員研究員の発掘成果

受賞関係

植村和代 名誉教授
令和7(2025)年度地域文化功労者表彰



植村和代名誉教授（織物学）が、令和7年度地域文化功労者表彰を受けました。全国各地域において、芸術文化の振興、文化財の保護に尽力するなど地域文化の振興に功績のあった個人及び団体に対し、その功績をたたえ、文部科学大臣が表彰するものです。植村名誉教授は、永年にわたり、八尾市立歴史民俗資料館運営委員等を務め、地域文化の振興に貢献したことが認められ、【文化財保護関係】で表彰に至りました。

心理学の知見で特殊詐欺対策へ 心理学部 谷口淳一教授と 森泉慎吾准教授が研究会に参画

警視庁によると、2025（令和7）年は、いわゆる「オレオレ詐欺」を含む特殊詐欺やSNS型投資・ロマンス詐欺の被害が急増しています。1月から11月末までの被害額は1,213.3億円に達し、前年同期比で約2倍（+108.9%）となりました。認知件数も2万4,912件（前年同期比+33.5%）にのぼり、前年の年間件数をすでに上回っています。



谷口淳一教授 森泉慎吾准教授

奈良県でも同様に、特殊詐欺やSNS型投資・ロマンス詐欺の被害が年々増加しています。2024（令和6）年中の被害額は約13億4,000万円にのぼり、人口10万人あたりの被害額では全国ワースト2位となるなど、深刻な状況が続いています。こうした状況を受け、奈良県警察は、心理学の知見を生かした防犯対策の検討を目的とした「奈良防犯心理研究会」を発足させました。本研究会は、奈良県内外の大学から心理学を専門とする研究者で構成され、本学からは心理学部の谷口淳一教授（社会心理学）と森泉慎吾准教授（産業・交通心理学）が参加しています。両教員は専門的知見を基盤に、被害に至る心理的要因の分析や、効果的な防止策を検討します。特殊詐欺被害の抑止への貢献が期待されます。本学では今後も、研究成果を社会に還元し、地域の安全・安心の向上に寄与していきます。

本学教員の執筆図書紹介

執筆図書一覧

本学教員の著作は、教育研究活動成果の公開を目的として、東生駒キャンパス図書館本館と学園前キャンパス図書館分館の「業績図書」コーナーに配架されています。

教員名	所属/役職	分類	書籍名	著者	出版社	発行年月	価格
鷺森 浩幸	文学部日本文化学科/教授	分担執筆	東大寺の新研究2 歴史のなかの東大寺	栄原 永遠男 佐藤 信 吉川 真司 編	法蔵館	2017年3月	17,000円+税
大石 祥寛	教育学部こども教育学科/准教授	分担執筆	保育者をめざすあなたへ 子どもと健康: 第3版	勝木 洋子 監修	みらい	2025年3月	2,200円+税
依田 恵美	文学部日本文化学科/准教授	分担執筆	役割語とキャラクター: ポピュラーカルチャーをより深く理解するために	金水 敏	研究社	2025年6月	2,600円+税
梶本 元信	名誉教授	単著	イギリス運河史	梶本 元信	日本経済評論社	2025年7月	4,500円+税
服部 正志	教育学部こども教育学科/准教授	単著	ありがとうのおやま	服部 正志	ニコモ	2025年9月	1,400円+税
谷口 淳一	心理学部心理学科/教授	分担執筆	エピソードでわかる子ども・子育て支援: 子どもの育ちを支える	西村 太志 古谷 嘉一郎 梅田 弘子 山崎 茜 編	北樹出版	2025年10月	2,300円+税
関根 俊一	名誉教授	監修	吉金樂石: 金峯山と山岳信仰	関根 俊一 監修	ロンドンギャラリー	2025年10月	非売品
川口 洋	客員研究員	分担執筆	歴史地理学事典	歴史地理学 編	丸善出版	2025年12月	24,000円+税



奈良の鹿を未来につなぐ
観光資源×ESG×イノベーション

Tezukayama Topics

保護者の皆さまへ

2025年度教育懇談会を学園前キャンパスで開催

本学では、学生の修学や大学の支援状況について父母等の皆様に理解をさらに深めていただく機会として、教職員と直接懇談できる「教育懇談会」を毎年開催しています。

10月19日、2025年度の懇談会を学園前キャンパスで実施し、125家庭の方々にお越しいただきました。午前の部は、奥村由美子学長による大学概要の説明に続き、キャリアセンター職員が近年の就職活動の動向を詳しく解説。特別企画として、各学科の優良企業内定者が登壇し、キャリアセンター職員との質問に答えながら、自身の就職活動について体験談を語りました。学生の生の声に、参加者は熱心に耳を傾けていました。

午後からは学科別のプログラムに移り、教育方針や学生支援の取り組みについて教員が説明。プロジェクトなどの実学体験を参加した学生自身が発表する学科もあり、リアルな学生生活の様子を伝えるため、各学科とも内容に工夫が凝らされていました。その後は個別相談会が行われ、教職員が成績や履修、学生生活のほか就職など、多岐にわたる相談に応じました。



(上) 経済経営学科の学生は、韓国での学会発表について保護者の前で報告した。(下左) 食物栄養学科のヘルスチーム菜良の学生が開発した「万博BENTO」と卒業生が営む菓子店のシフォンケーキを提供。(下右) 個別相談ブースでは、保護者の気になるポイントを、教員が丁寧に答える。

「食と農をつなぐ朝ごはんコンテスト2025」で食物栄養学科の学生が銀賞受賞

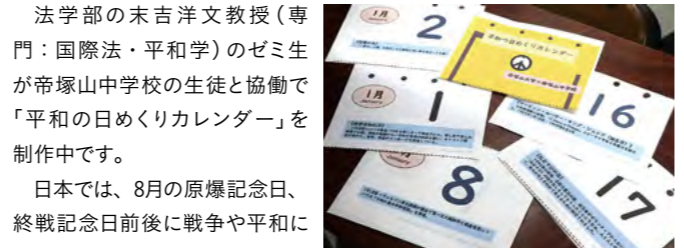


農林水産省近畿農政局と大阪ガスネットワーク株式会社が主催する「食と農をつなぐ朝ごはんコンテスト2025」で、食物栄養学科3年の辻彩音(写真右)さん、森田聖菜さん(写真左)による「チームビタミンズ」が銀賞を受賞しました。

同コンテストは、近畿の有機農産物などへの関心を高め、学生自らが朝ごはん(おむすびと一品料理)を考案・調理することで、食に対する意識と行動の変化を促すことを目的に開催されています。今回は79チームが応募し、書類審査を通過した8チームが実演審査に進みました。

2026年1月17日、大阪市西区のハグミュージアムで行われた実演審査では、「焼きおにぎりのだし茶漬け」と「トマトエッグカップ」による「ボリューム満点!! 満腹朝ごはん」を披露。手際よく彩り豊かな一膳を仕上げ、銀賞に輝きました。

8月だけの平和から毎日の平和に「平和の日めくりカレンダー」制作



法学部の末吉洋文教授(専門: 国際法・平和学)のゼミ生が帝塚山中学校の生徒と協働で「平和の日めくりカレンダー」を制作中です。

日本では、8月の原爆記念日、終戦記念日前後に戦争や平和に関する報道が集中します。この日めくりカレンダーは、その季節性ともいえる平和への関心を、日常的に意識させることを目的に企画したものです。

1月26日には帝塚山中学校で、掲載内容を検討するための意見交換を実施しました。あわせて、「奈良県に平和の日を制定するなら」というテーマでワークショップも行いました。

カレンダーには、国内外の戦争・平和に関する出来事を365日分掲載し、各日付に写真と簡単な解説を添えます。印刷して使えるダウンロード版と、スマートフォンで閲覧できるアプリ版の公開を予定しています。ダウンロード版は、末吉ゼミのHP (<https://sueyoshi0.wixsite.com/tzk-peacestudies>) でこの5月に公開の予定です。

京都デザイン賞2025で居住空間デザイン学科の学生4名が入賞・入選

公益社団法人京都デザイン協会主催の「京都デザイン賞2025」で、居住空間デザイン学科の学生4名が入賞・入選しました。11月22日、京都市上京区の京都府庁旧本館・旧議場で授賞式が行われ、深谷友貴准教授(専門: プロダクトデザイン)とともに受賞学生が出席しました。

京都デザイン賞は、京都の伝統と文化をふまえて新たなデザインを創出する作品を発掘・顕彰し、その価値を広く発信することを目的としたデザインコンペティションです。2020年から応募を開始し、今年で6年連続の入賞・入選となりました。

今年度は、「KeDDii ALPHA賞」で谷川いろはさん(4年・写真前列右)の作品「ご縁を結ぶカフェの看板」が入賞。「伏見の清酒・都鶴賞」で浅田真優さん(2年・写真前列中)が入賞したほか、杉浦三緒さん(3年・写真前列左)と古野奈奈さん(2年・写真後列右)が「都鶴賞」で入選しました。

4人は、自分の発想を形にするプロセスでさまざまな学びを得たと話し、指導してくれた大里浩二教授(専門: ビジュアルデザイン、グラフィックデザイン)、深谷友貴准教授に感謝の意を表しました。



Tezukayama Career Support

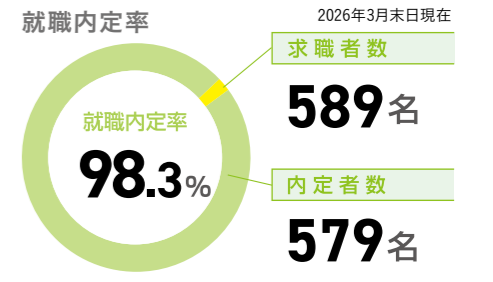
就職支援の取組み

キャリアセンターでは、学生1人ひとりが「実学教育」を通じて主体的に行動し、地域や社会に貢献できる人材の育成をめざしています。

学生が自らの意思で進路選択・就職決定ができるよう多種多様なサポートプログラムを実施するとともに、個人の希望やニーズや就職活動の進捗状況に合わせてきめ細かい支援を行っています。

「就職に強い帝塚山大学」 面倒見のよさで、就職活動を支える

キャリアセンターでは、3年次から全学生を対象にキャリアカウンセリングを実施しています。自己分析や業界研究の進め方、エントリーシートの添削、面接対策まで、経験豊富なカウンセラーが個別に対応。学生一人ひとりの状況に応じたアドバイスで、就職活動に自信を持って臨めるよう支援しています。



2026年3月卒業生 主な内定先

業種内50音順
2026年3月現在

- 【民間企業】
ALSOK(株)/いすゞ自動車近畿(株)/(医)医誠会神崎中央病院/(医)恭昭会彦根中央病院/(医)翼翔会/(医)和幸会阪奈中央病院/ANA関西空港(株)/エムサービス(株)/大阪ガスセキュリティサービス(株)/大阪国民健康保険団体連合会/大阪シティ信用金庫/大阪信用金庫/大阪中河内農業協同組合(JA大阪中河内)/小川電機(株)/オルビス(株)/浅川組(株)アド近鉄/(株)エディオン/(株)鍛冶田工務店/(株)近創/(株)鴻池組/(株)神戸製鋼所/(株)シャトレーゼホールディングス/(株)ジェイアール西日本総合ビルサービス/(株)ジェイアール西日本ビルト/(株)大京穴吹建設/(株)ダイハツビジネスサポートセンター/(株)南都銀行/(株)パウハウス丸栄/(株)パナソニックグループ/(株)ファーストリテイリング/(株)ゆうちょ銀行/(株)LITALICO/(株)LEOC/川口土木建築工業(株)/紀の国住宅(株)/近畿日本鉄道(株)/近鉄ケーブルネットワーク(株)/近鉄ファシリティーズ(株)/鴻池運輸(株)/江綿(株)/三和シャッター工業(株)/敷島製パン(株)/シチズン時計(株)/市民生活協同組合ならコープ/(医)美杉会/(社)福なみはや福祉会/住友電工情報システム(株)/住友林業(株)/大日本土木(株)/大和信用金庫/高松建設(株)/(特医)新仁会奈良春日病院/(独)地域医療機能推進機構(JCHO)/トヨタL&F近畿(株)/ナブコア(株)/奈良県農業協同組合(JAならけん)/日清医療食品(株)/パナソニックテクノサービス(株)/パナソニックリビング近畿(株)/フランスベッド(株)/フルックスグループ/リボン食品(株)/ロート製薬(株) ほか
- 【公務】
奈良県庁/生駒市役所/王寺町役場/柏原市役所/桜井市役所/須崎市役所/大阪府警察本部/京都府警察本部/滋賀県警察本部/豊中市消防局/奈良県警察本部/奈良県広域消防組合/奈良市消防局/枚方寝屋川消防組合/和歌山県警察本部 ほか
- 【教育】
中学校・国語科教諭(大阪市教育委員会)/家庭科教諭(大阪府教育委員会・大阪市教育委員会)/栄養教諭(奈良県教育委員会・大阪市教育委員会)/高等学校教員(大阪産業大学附属高等学校/東海大学付属甲府高等学校)小学校教諭(奈良県教育委員会/大阪府教育委員会/大阪市教育委員会/堺市教育委員会/兵庫県教育委員会/和歌山県教育委員会/静岡県教育委員会/東京都教育委員会/福島県教育委員会/川崎市教育委員会/千葉県教育委員会/北海道教育委員会/鳥取県教育委員会/島根県教育委員会/高知県教育委員会/福岡県教育委員会)幼稚園教諭・保育士(橿原市役所/葛城市役所/香芝市役所/調布市役所/大阪市役所/八尾市役所/吹田市役所/枚方市役所/泉大津市役所/西宮市役所/加古川市役所/つるぎ町役場) ほか

香川県と就職支援で連携 学生のUIターン就職を促進



2月27日(金)、香川県と「就職支援に関する協定」を締結しました。

本協定は、本学学生に対し、香川県内企業の情報提供や県主催イベントの案内を通じて、同県へのUIターン就職を支援するものです。なお、本学が自治体と就職支援分野で協定を結ぶのは、香川県が初めてです。

当日は、協定締結後に意見交換を行いました。香川県大阪事務所の尾崎俊史氏は、「奈良県の大学との協定は初めてのことで、

県外で学んだ学生が、ふるさと香川で活躍できるよう支援していきたい」と述べ、奥村由美子学長は、「近畿圏以外の出身学生にも、本学で可能性を広げ、生まれ育った地域で活躍してほしい。香川県へ視野を広げる取り組みを進めたい」と語りました。

今後は、香川県と連携し、県内企業や就職関連イベントの情報提供に加え、学内での就職説明会の開催などを通じて、学生の多様なキャリア形成を支援していきます。

Event & Information

※予告なく、イベントが中止、開催形態が変更される場合がありますので、最新情報は公式サイトでご確認いただくか、主催者までお問い合わせください。

FINANCIAL REPORT

令和6(2024)年度決算について(報告)

帝塚山大学を設置する学校法人帝塚山学園の令和6(2024)年度決算が、2025年5月26日開催の理事会において承認されました。

【収入】

収入の主たる科目は次のとおりです。
 ・学生生徒等納付金5,023百万円 対前年度292百万円増
 ・手数料 87百万円 対前年度10百万円減
 ・寄付金 65百万円 対前年度9百万円増
 ・経常費補助金 1,235百万円 対前年度21百万円増
 ・雑収入 326百万円 対前年度122百万円増
 収入合計は前年度と比較して91百万円の減少となりました。その主な要因は、学生数の減少により学生生徒等納付金が減少したことによります。経常費補助金増額となっていますが、その主たる要因は奈良県私立高等学校授業料軽減補助金制度の拡充によるものです。

【支出】

支出合計は、前年度と比較して95百万円の減少となりました。その主な要因は、学園前16号館改修工事の完了による修繕費の減少、大学ネットワークシステムのリース終了による賃貸料の減少、償却終了による減価償却費の減少によるものです。
 支出の大部分を占める教育活動支出の主な科目の状況は次のとおりです。
 ・人件費 4,751百万円 対前年度148百万円増
 ・教育研究経費・管理経費 2,985百万円 対前年度138百万円減

【収支差額】

令和6年度は大学の在籍者数が収容定員を相当下回ったことを主因として教育活動収支差額は1,003百万の支出超過、教育活動外収支は受取利息・配当金の増加及び、借入金利の減少から171百万円の収入超過、特別収支は大学開学60周年記念寄付金の募集等により50百万円の収入超過となり、基本金組入前当年度収支差額は、781百万円となりました。また、建物の改修及び借入金の返済等により基本金組入額は970百万円となりました。
 令和6年度決算は引き続き赤字となり、支出超過額も増大する結果となりました。帝塚山学園経営安定化計画(大学編・中高編・小幼編)に基づいた諸施策、特に募集定員の確保に向けた取組みを確実に遂行し、収支均衡へ努力してまいります。

NOTICE

帝塚山大学名誉教授称号授与式

3月18日、令和7年度帝塚山大学名誉教授称号授与式を東生駒キャンパスにて行いました。名誉教授の称号は、本学の教授として15年以上在職した方、在職期間にかかわらず教育上又は学術上特に顕著な功績のあった方に授与されます。

今年度は次の3人の教授に、名誉教授の称号が授与されました。

- 鷲森浩幸教授 (文学部日本文化学科)
- 岡本美紀教授 (法学部法学科)
- 佐野隆教授 (法学部法学科)

授与式では、奥村由美子学長から名誉教授の証書がそれぞれに手渡され、先生方の功績と永年にわたる大学への貢献に対して感謝の言葉が述べられました。



左から順に、佐野隆教授、鷲森浩幸教授、岡本美紀教授、奥村由美子学長

第46回特別展示 「古瓦との出会いIX 一金箔瓦」

今回の特別展示は「古瓦との出会い」シリーズの第9回目として、NHK大河ドラマ「豊臣兄弟!」にちなみ、本学が所蔵する「金箔瓦(きんぱくがわら、金箔を貼った瓦)」を展示し、織田信長や豊臣秀吉・秀長の時代に誕生・流行した日本独自の瓦「金箔瓦」の歴史をたどります。

【展示/開催期間】2026年5月18日(月)~6月27日(土) 9:30~16:30
 【休館日】日曜日 【入館料】無料
 【展示に関するお問合せ】帝塚山大学附属博物館 TEL:0742-48-9700
<https://www.tezukayama-u.ac.jp>

第62回 虹色祭

下記の日程で「虹色祭」を開催します。
 バラエティ豊かな模擬店のほか、展示やステージイベントもさらにパワーアップ。
 フィナーレは虹色祭恒例の打ち上げ花火。盛りだくさんな2日をぜひお楽しみください。

【日程】2026年11月21日(土)・11月22日(日) 10:00~19:00(予定)
 【場所】帝塚山大学 東生駒キャンパス



訃報



本学名誉教授で元教養学部教授の伊原吉之助先生が、2026年3月18日に逝去されました(享年97歳)。ご専門は社会思想史(中国・台湾・日本)。
 神戸大学経済研究科博士課程を修了後、龍谷大学経済学部の講師を経て、1964年4月、本学に着任。1971年に教授、2000年4月より名誉教授。開学時の教員の1人として、草創期の本学を支えられました。大学開学50周年記念DVD「50+」にもご出演いただいています。

論文、評論に、「東亜安定の要：日本と台湾—シナの覇権圧力にどう対抗するか?—」(台湾・静宜大学日本語文系『日本学と台湾学』国際学術会議)、「台湾は世界安定の要衝である」(正論『産経新聞』2009.6.26)、「袁紅氷が暴露した中国の台湾併合計画」(正論『産経新聞』2010年4月)、「その後の馬英九政権」(『日本』2011.4月号)、「日米安保を盾に安定選んだ台湾」(正論『産経新聞』2012.1.25)など。
 ご生前のご功績を偲び、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



姉弟で歩むキャンパスライフ

千葉から奈良へ

TEZUKAYAMA FAMILY

#07

姉

徳野 朱姫さん ㊦

現代生活学部
 居住空間デザイン学科3年

現在は、人情味のある関西で職を得たいと就職活動する毎日。商業施設のディスプレイ職に就くのが夢だそう。卒業研究展の建築模型の計画図を考え中。涼太さんとの身長差は約28cm!

おっとりとした姉とひょうひょうとした弟、といった印象の徳野朱姫(居住空間3年)さん、涼太さん(日本文化1年)姉弟。2人を千葉から本学へ導いたのは帝塚山短期大学の卒業生であるお母さま。奈良が好きで、千葉から進学した経験を持つ母の言葉が決め手になりました。

「もともと県外進学を希望していて。母から帝塚山大学を勧められました」(朱姫さん)。

ところが、オープンキャンパスに参加する直前、朱姫さんは大けがをしてしまいます。それでも、松葉づえをつきながら参加。学生スタッフが親身にサポートしてくれたことに心を打たれたそうです。小さいころから手先が器用だった朱姫さんは建築デザインを志して居住空間デザイン学科へ。

弟

徳野 涼太さん ㊦

文学部日本文化学科1年生

大学のPRをしながらか、コミュニケーション能力を磨こうとオープンキャンパススタッフに。古文書や考古学のほか、奈良の地域性が学べる民俗学の授業が特にお気に入り。

現在は自身もオープンキャンパススタッフとして高校生を迎える立場です。「お見送りのときに参加者が笑顔になってくれる瞬間がうれしい」と声を弾ませます。

一方、弟の涼太さんも、歴史好きが高じて県外の大学を探していました。歴史を学ぶなら奈良だと、お母さまから強く推されたそう。オープンキャンパスで受けた、花田卓司准教授の米に関する古文書の模擬講義のおもしろさに衝撃を受けて本学の文学部への進学を決意。将来は学芸員を視野に大学院進学も考えています。

姉弟で同じ大学に通うことについては、「高校も一緒だったので、またかと思いました」(朱姫さん)。涼太さんも「正直、少し抵抗はありまし

た」と苦笑い。それでも、2人並んでオープンキャンパススタッフとして活躍しています。

現在は大学近くで同居中ですが、互いのペースを尊重するうち、生活はほぼシェアハウスのような状態に。「課題に集中したいので、この距離感がちょうどいい」(朱姫さん)。「生活時間帯が異なるので、これがベストかな」(涼太さん)。

2人がともに挙げるのは、帝塚山大学の居心地のよさ。「先生も学生も穏やかで温かい」(朱姫さん)、「県外出身の学生も多くて安心。好きなことを追いかける環境だと思う」(涼太さん)。異なる学びの場でそれぞれの夢を追う徳野姉弟。奈良での学生生活は、まだ続きます。

奈良市の
ふるさと納税で

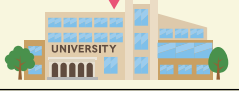
帝塚山大学を応援できます

あなたの寄付が奈良市の未来と学生の学びをサポートします



奈良市内の7大学から
指定して寄付ができます

帝塚山大学を
選択



寄付の方法による違い

奈良市外在住の方

返礼品あり
大学へ **50%**

返礼品なし
大学へ **80%**

奈良市内在住の方

返礼品なし
大学へ **80%**

返礼品の有無にかかわらず、
寄附金は税法上の寄附金控除の対象となります
残りは奈良市の学生・若者を支援する事業に活用

奈良市HP



寄付金の使い道

大学の地域連携活動に活用します



活動に係る
交通費 消耗品 成果物の
印刷費 講師謝金

地域の課題解決につながる連携活動に使用し、学生の学びに役立てるとともに地域の活性化につなげます。

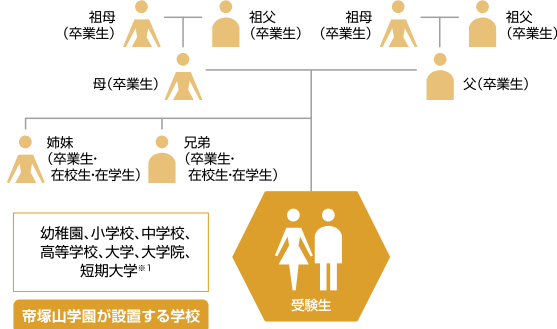
- ☑ 入学金が通常18万円のところ 6万円に減免!
- ☑ 4年間で100万円給付の奨学金をねらえる!

2027年度 ファミリー入試(専願)のご案内

ファミリー入試とは、帝塚山学園の建学の精神・学風を深くご理解いただき、ともに帝塚山大学のファミリーとしてお力添えをいただける方のご入学を歓迎する入試制度です。出願資格は、学校法人帝塚山学園が設置するいずれかの学校(幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学、大学院、短期大学)の卒業生、もしくは在校生・在学生の2親等以内の親族で、本学が定める基準を満たし、高等学校を2026年4月1日から2027年3月31日までに卒業された方または卒業見込みの方です。

*出願の際には「帝塚山ファミリー」であることの証明書(卒業証書の写し・卒業証明書等を添付)が必要です。

■ 受験生からみたファミリー入試の対象となる卒業生・在校生・在学生の範囲



■ 募集人員 若干名(各学科とも)

■ 選考方法

学校法人帝塚山学園が設置するいずれかの学校(幼稚園、小学校、中学校、高校、大学、大学院、短期大学^{※1})の卒業生もしくは在校生・在学生の2親等以内の親族であるもの。各学科ごとに成績等諸条件^{※2}があります。詳しくは入試広報課までお問い合わせください。

※1: 帝塚山短期大学は、2000年に帝塚山大学短期大学部に名称変更、帝塚山大学短期大学部は2004年、帝塚山大学 現代生活学部 食物栄養学科・居住空間デザイン学科に改組しました。

※2: 高等学校または中等教育学校の第3学年1学期(2学期制の場合は前期)までの調査書の全体の学習成績の状況が3.2以上の者

■ 選考方法 ①面接 ②書類審査(調査書・志望理由書)

■ 前期スケジュール

出願期間	2026年9月24日(木)～10月7日(水)(消印有効)
試験日(面接)	2026年10月17日(土)
合格発表	2026年11月2日(月)
1次手續締切日(入学金納付)	2026年11月20日(金)

■ 後期スケジュール

出願期間	2026年11月9日(月)～11月28日(土)(消印有効)
試験日(面接)	2026年12月5日(土)
合格発表	2026年12月11日(金)
1次手續締切日(入学金納付)	2026年12月21日(月)

詳しい出願資格や要件などに関しては、事前に入試広報課までお問い合わせください。

チャレンジ制度 奨学金

返金不要

ファミリー入試も対象!
NEW!

4年間で **100万円** 給付

年内の専願入試に合格された方は、追加の入学検定料なしでチャレンジ制度試験にチャレンジでき、成績上位者(20位以内)には奨学金(100万円)を給付します。初年次の後期に10万円、以降前期・後期ごとに15万円を給付(4年間で合計100万円)します。

- 対象入試: 総合型選抜 前期・後期(オープンキャンパス参加型、自由応募型、スポーツ型)、指定校推薦、ファミリー入試
- 対象入試: 総合型選抜 前期・後期(オープンキャンパス参加型、自由応募型、スポーツ型)、指定校推薦、ファミリー入試
- 日程及び試験内容: 一般選抜B日程[2科目型]と同じ日程及び問題
- チャレンジ制度の受験は検定料無料 ※次年度の継続は学業成績により毎年審査があります。

2026 OPEN CAMPUS

● 東生駒キャンパス [全日程 全学部 全学科 対象]

● 学園前キャンパス [全日程 全学部 全学科 対象]

4/26⑩ 7/5⑩ 8/15⑩

5/24⑩ 6/14⑩ 7/26⑩ 8/8⑩ 9/6⑩ 12/13⑩

[入試情報サイト]



【お問合せ】 帝塚山大学 入試広報課

Tel 0742-48-8821 (直通)

Fax 0742-48-9021

nyushi@jimutezukayama-u.ac.jp



「大学通信帝塚山」企画・編集委員会

編集・発行 帝塚山大学 入試広報課 発行日 2026年3月

〒631-8501 奈良市帝塚山7-1-1 TEL 0742-48-9149 (広報専用) FAX 0742-48-9021

mail koho@jimutezukayama-u.ac.jp URL https://www.tezukayama-u.ac.jp/

卒業生の住所変更などのお問い合わせ先: 帝塚山大学同窓会わかどり会 TEL 0742-48-6157 (平日10時～15時)